

資料館見学の手引き

立川市内の遺跡

立川市歴史民俗資料館

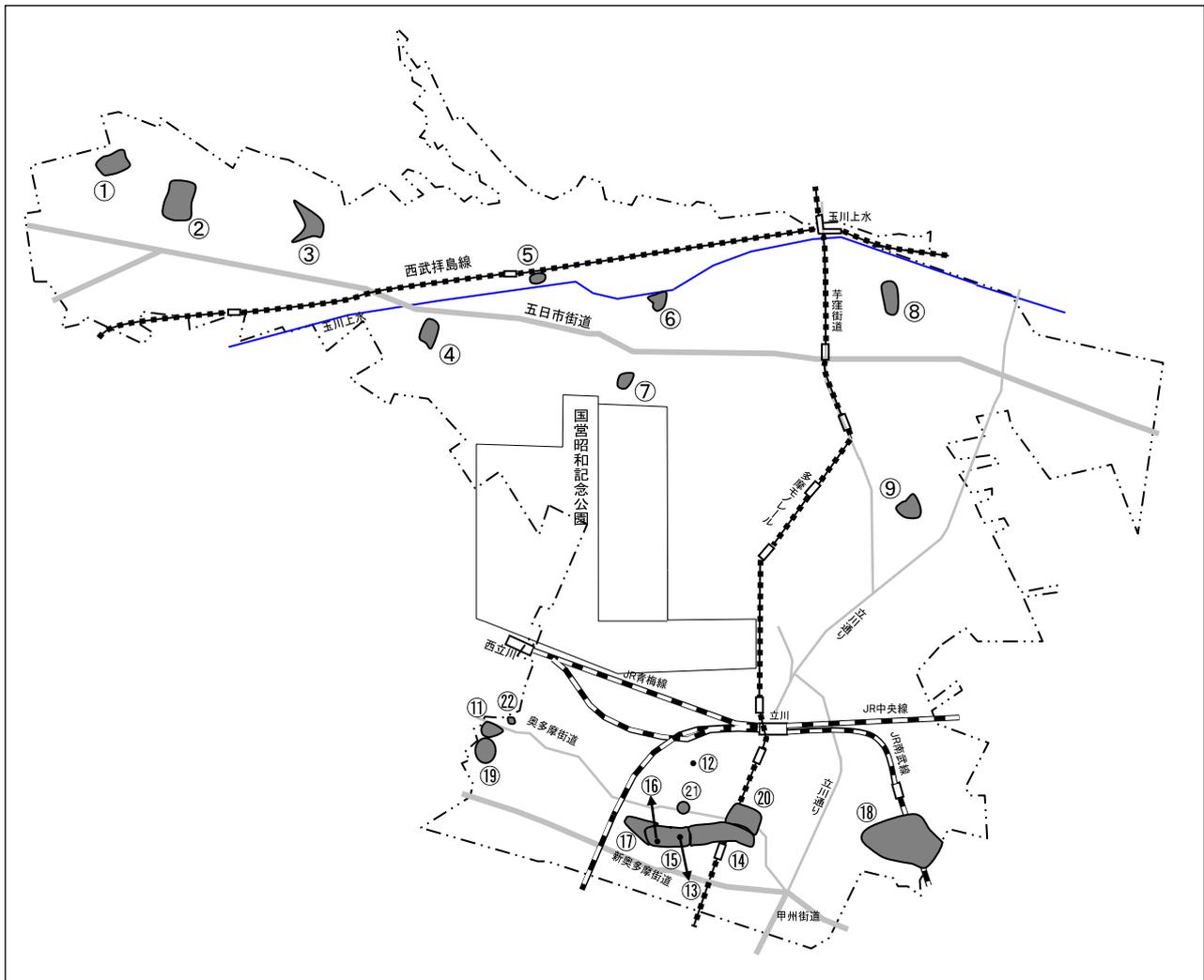
〒190-0013 立川市富士見町 3-12-34

042-525-0860

2021年1月改訂

立川市内の遺跡は大きく三つに分けられます。一つは市北部の砂川地区に点々と発見されている旧石器時代末期(およそ1万3000年前)の遺跡です。ここでは槍の先などの石器が採集されています。二つ目は市の南部、多摩川に面する段丘上の遺跡です。ここには大和田遺跡、向郷遺跡など数多くの遺跡が集まっています。向郷遺跡では旧石器時代後期のナイフなど石

器が発掘されています。大和田遺跡や向郷遺跡では縄文時代(およそ1万3000年前~2500年前)の集落跡が発見されています。下大和田遺跡では奈良・平安時代(およそ1300年~1000年前)の掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されています。三つ目は段丘下の沖積低地にある遺跡です。台の下遺跡では奈良・平安時代の竪穴住居が見つかっています。



市内の遺跡

- ①西砂川遺跡(縄文)
- ②殿ヶ谷新田遺跡(旧石器,縄文,平安,中世)
- ③松中つ原遺跡(旧石器,縄文)
- ④天王橋B地点遺跡(旧石器)
- ⑤上水向遺跡(旧石器)
- ⑥宮ノ橋遺跡(旧石器)
- ⑦大山道東遺跡(旧石器,縄文)
- ⑧川越道南遺跡(縄文)
- ⑨観音寺原遺跡(旧石器,縄文)
- ⑩台遺跡(縄文)
- ⑪西砂川遺跡(古墳)
- ⑫No.12遺跡(古墳)
- ⑬No.13遺跡(古墳)
- ⑭大和田遺跡(旧石器,縄文,奈良,平安,中世,近世)
- ⑮普濟寺遺跡(縄文)
- ⑯No.16遺跡(古墳)
- ⑰立川氏館跡(中世,近世)
- ⑱向郷遺跡(旧石器,縄文,奈良,平安)
- ⑲台の下遺跡(縄文,奈良,平安,中世,近世)
- ⑳下大和田遺跡(旧石器,縄文,奈良,平安,中世,近世)
- ㉑No.21遺跡(縄文,奈良,平安)
- ㉒No.22遺跡(縄文)

■大和田遺跡

柴崎町4丁目の多摩川を見下ろす段丘上に広がる遺跡です。昭和29年(1954)以来、6回にわたり、おおがかりな調査が行われました。その結果、今から8000年前の縄文時代早期の竪穴住居跡が4軒、約4500年前の縄文時代中期の住居跡が19軒、それに約1300~1000年前の奈良・平安時代の住居跡が5軒、平安時代の掘立柱建物が1棟発見されています。

■向郷遺跡

錦町4丁目から羽衣町3丁目にかけての段丘上に広がる大変範囲の広い遺跡です。段丘の南側には、湧き水を集めた矢川が流れており、生活になくてはならない水を簡単に手に入れることができるため、たいへん住みやすい場所だったようです。昭和20年代以降、30回以上の発掘調査が行われ、70軒以上の縄文時代中期の住居跡が発見されました。中でも昭和63年から平成2年にかけて行われた市営錦町住宅地点の発掘では、50軒以上の住居跡と200基以上の墓が調査されました。

それらに伴って、たくさんの縄文土器や石器などが発見されています。同時に縄文時代以前の、まだ土器を使っていなかった時代(旧石器時代または先土器時代)の石器も発見されました。

そのほかの地点では縄文時代早期の炉穴や縄文時代後期の土器などが発見されています。

■下大和田遺跡

柴崎町3丁目と4丁目に広がる遺跡で、大和田遺跡より一段高い段丘面に位置しています。平成10年と平成12年の2回にわたって大規模な発掘調査が行われています。調査では今からおよそ1300~1000年前の奈良・平安時代の竪穴住居跡が5軒、掘立柱建物が6棟発見されています。土器は土師器という赤い素焼きの土器のほかに須恵器という窯で焼いた硬い土器も出土するようになります。竪穴住居も今までの炉に代わって粘土で作ったカマドが作られるようになりました。東国では一般的な庶民はまだ竪穴式住居に住んでいたと考えられており、下大和田遺跡では掘立柱建物が多く見つかっていて、硯と墨で字を書かれた墨書土器も出土しています。このことから字を書ける人がいたと考えられ、一般の人たちの集落ではなく、古代の役所の跡と想定されています。



大和田遺跡調査風景



向郷遺跡の縄文時代竪穴住居跡



向郷遺跡の縄文時代墓と土器



下大和田遺跡の平安時代掘立柱建物跡